

Title	前号目次 奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.11 (1924. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19241101-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

的用具に對して受身の態度を持する。紡錘は能動的であるが、綿は受動的であり、鐵槌は能動的であるが、鐵鑽は受動的である。かくて産業分野を通じて過程そのもの、性質が、能動的に作用しつゝある器具と受動的な材料との間に一境界線を劃するのである。但し受動的資本財は斯の如き原料のみならず、未完成品も又商人の手に在りて購買者を待ちつゝある所有する商品のストックをも包含するものである。而して資本財のこの區別は、所謂固定資本と流動資本との間に通例なざるゝ區別の基礎となるものである。

然らば利子とは何ぞや。其は富の永續的元本の年々儲くるそれ自體の一分數である。其は百圓によつて年々儲けられる五圓である。世界の建物、機械及船舶に體現せらるゝ資本は、斯の如くして増大するのである。通例利子は歩合を以て示さるゝ、而して歩合は資本それ自體とそれの年々の収益とが共に價值單位を以て記述せらる。

るゝことを意味する。即ち利子は資本の儲くるものである。然らば資本の儲くるものは如何。それは賃料と名付くる所のものである。

以上は單にクラーク教授の資本學說の一面の梗概に過ぎぬ。併し要約するに彼の資本學說の中心點は資本と資本財との峻別に存する。日常業務の慣例を移して以て、抽象的觀念としての資本を理論的に打ち立てし點に彼の思想の特色は燦然として輝いて居るのである。彼に關するあらゆる論難攻撃は皆之を中心として旋回して居るのである。

今やこの限界效用論者中の一驍將の主著我學界に翻譯せらるゝ、敢て何等の意義なしとせず。譯文は、未だ以て全然推敲の餘地なしとはせざれども、極めて流麗平明なる筆致を以てしてゐる。譯者の多大の努力に敬意を表すると同時に純理學經濟學に興味を有する大方諸彦に一讀を推奨する次第である。(金原賢之助)

前號(第十八卷) 第十號 目次 (大正十三年十月號)

論 說

- ◎ 農業の進化 瀧本 誠一
- ◎ 較差地代と絶對地代(下) 小泉 信三
- ◎ 組織的觀念市場としての取引所 向井 鹿松
- 雜 錄
- ◎ ソレルと唯物史觀 百瀬 二郎
- ◎ 生産的及び不生産的なる語に就て(四) 榎本 鑛治
- ◎ 佛蘭西經濟學に於ける價值論の發達(四) 津田 誠一
- ◎ エドワード三世に關する一考察(上) 高木 壽一
- 新刊紹介
- ◎ 露西亞に於ける協同組合運動 伊藤 秀一

● 一年定價 金五拾錢
● 半年定價 金貳圓九拾錢
● 一年分金五圓四拾錢
● 郵稅金壹圓五厘
● 郵 稅 共

● 編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
● 營業に關する用件は發賣元宛
● 原稿締切期日は發行の前月十日限
大正十三年十月廿一日印刷納本
大正十三年七月一日發行

● 每月一回一日發行

三田會社 編輯 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五 郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金子 活 版 所

發賣元 東京市芝區三田貳丁目壹番地
丸善株式會社三田出張所
電話高輪 一九二六
● 尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會